

初等教育における異文化理解の学習方法



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 教授

吉藤 玲子 Yoshifuji Reiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 異文化理解・学習方法・年中行事・単元開発・生涯学習



研究の概要

SDGs 目標 10 : 人や国の不平等をなくそう

SDGs 目標 16 : 平和と公正をすべての人に

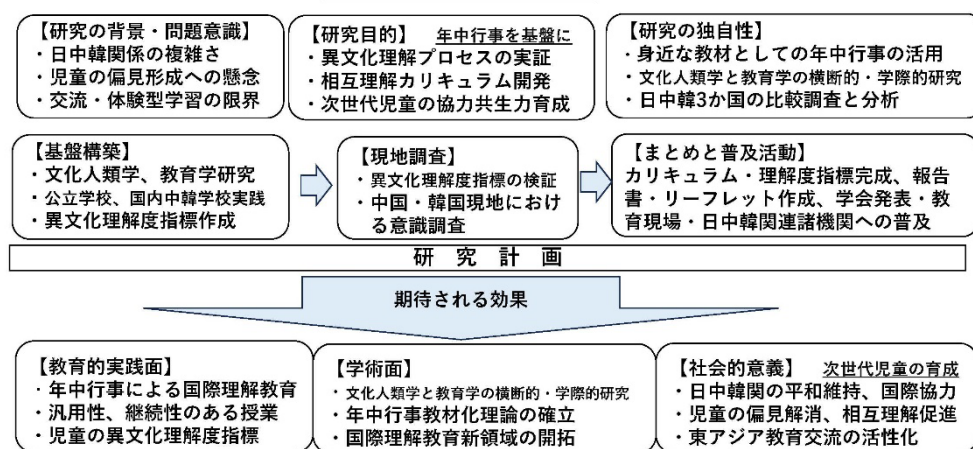
近年、グローバル化が進展する社会の中で、初等教育においては、国際社会に対応できる資質・能力の育成とともに、児童が自国の文化や歴史を理解し、自国に誇りと愛着をもつ心情を育てる教育の重要性が一層高まっている。本研究は、年中行事の比較学習が児童の異文化理解に与える効果を、実証的に明らかにすることを目的とする。本研究では、日本・中国・韓国に共通する七夕や正月などの年中行事に着目する。これらの行事は、共通の文化的基盤をもちながらも、国や地域によって意味付けや実践の在り方が異なる点に特徴がある。文化人類学および教育学の知見を踏まえ、「類似点と相違点」に焦点を当てたカリキュラムを設計し、初等教育段階での授業実践を通してその有効性を検証する。対象は、日本人児童に加え、在日の中国人・韓国人児童、さらに中国・韓国の現地児童とし、年中行事の学習を通じた相互理解の変容過程を明らかにする。本研究の特徴は、イベント型国際理解教育とは異なり、年中行事という学校教育に根付いた教材を用いることで、全国の学校で導入可能な汎用性と繰り返し学習できる持続性を備えたカリキュラムモデルの構築を目指している点にある。

また日中韓それぞれの児童における「自国理解」「他国理解」の段階や特徴を明らかにすることで、隣国との相互理解を多角的に捉えることを試みる。本学には

多くの中国人留学生在籍していることから、今後は留学生と小学校現場をつなぐ交流活動の実践も視野に入れ、大学と地域が連携した、異文化理解教育の可能性についても検討していきたい。

本研究は、隣国との平和と協力を担う次世代の児童を育成することを最終的な目的としている。

研究の全体構想図



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究で追究しているカリキュラムおよび児童の異文化理解度を測定する指標は、リーフレットやデジタル教材として体系化し、学会発表や教員研修、オンライン研修等を通して広く普及を図る。これにより、学校現場のみならず、教育関連企業、教材出版社による教材開発や、研修プログラムへの応用が可能となる。また、本研究は初等教育段階から日中韓の文化的相互理解を体系的に促進する点に特徴があり、東アジア地域における持続的平和と国際協力の基盤形成につながるものである。年中行事の「類似と相違」に着目し、異文化理解の過程を実証的に明らかにする点は、国際的にも汎用性が高い。さらに、本研究で育成される、日中韓の関係を自らの経験と知識に基づいて判断できる力の育成は、将来的に外交、国際ビジネス、観光、国際交流、地域共生などの分野において求められる基礎的素養となる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【学会発表】・「日本と韓国の年中行事から学ぶ異文化理解の学習方法」

・「日本と中国の年中行事から学ぶ異文化理解の学習方法」

【論文】「日本と韓国の年中行事から学ぶ異文化理解の学習方法～小学校4年生・6年生を対象にした単元開発と授業実践～」